

## 6 警察の乗り物

Q 2 9 警察には、どのような種類の車があるのですか。それはどのようなときに使うのですか。

A 主なものとしては、

○ パトカー

パトロールをして犯罪や交通事故をなくし、市民の安全を守ります。



○ 移動交番車

地域の人たちがたくさん集まる場所などに車を止めて、みなさんの相談を聞いたり、パトロールをしたり、交番と同じ活動を行います。



○ 捜査用車

事件の捜査や犯人を捕まえるために、刑事が使います。

○ 輸送車

災害が発生した場合や警備のため、たくさんの警察官を運ぶときに使います。



○ 白バイ

交通事故をなくすため、パトロールをしたり、交通違反を取り締まります。



○ 投光車

夜間に事件や交通事故が発生した場合、現場を明るく照らし、警察官の活動を助けます。



○ レスキュー車

大きな災害現場などで、災害にあった人の救助活動に使用します。



このほかに『警護車』『鑑識車』『交番用バイク』などもあります。

Q 3 0 パトカーの始まりはいつですか。

A 昭和24年（1949年）、アメリカ軍からオープンカーを譲り受け、アメリカのパトカーと同じように白と黒に塗ったのが、最初です。

Q 3 1 パトカーの色は、なぜ白と黒なのですか。

A パトカーが日本に登場したときは、日本で生産している一般の自動車はほとんどが白色で、パトカーも白色だと見ただけではパトカーと一般の自動車の見分けが難しかったです。

そこで、パトカーであることが一目で分かるように、白色ボディの下半分を反対の黒色に塗りました。

これがパトカーを白と黒の二色にした始まりで、昭和30年（1955年）には全国的に白と黒になりました。

**Q 3 2** パトカーの赤いライトは、どのようなときに光っているのですか。

A パトカーの赤いライトは、赤色灯といい、周りの人や車に警察官がいることを知らせて、事故に注意してもらったり、犯罪を犯そうとしている人をやめさせたりするために、パトロール中に点灯させています。

また、事件や事故が発生して現場へ急行しているときは、交通事故を防ぐため、サイレンを鳴らしながら赤色灯を光らせて、周りの人や車にパトカーの緊急な走行を知らせています。

**Q 3 3** 白バイの始まりはいつですか。

A 最初は、赤色のオートバイで交通取締りをして「赤バイ」と呼ばれていましたが、昭和11年（1936年）に白色に塗りかえられ、現在の「白バイ」が誕生したのです。

**Q 3 4** 白バイの警察官は、どのような人がなれるのですか。

A 警察官になって1年以上の経験があり、「白バイに乗りたい！」「交通事故を減らしたい！」という気持ちを持った人の中で、特に交通違反の勉強をして、運転も上手な人が選ばれます。

**Q 3 5** 白バイの警察官は、どのような訓練をするのですか。

A 乗り方や運転方法などの基本の訓練、違反した車を追いかけたり、警察官自身が事故にあわないための訓練を行っています。

Q 3 6 警察のヘリコプターは、何をするのですか。

A 県警のヘリコプターは、空からのパトロールをしたり、海や川で事故にあった人を捜したり、自動車などで逃げる犯人を追いかけたり、空から交通事故防止のお知らせをするなど、様々な活動をしています（千葉県警察には、3機※のヘリコプターがあります。）。



※ かとり1号、かとり2号、かとり3号

Q 3 7 警察の船は、何をするのですか。

A 警察の船は、みなさんが安心して海で泳いだり、釣りができるように、海のパトロールをしています。



また、海に落ちた人を助けたり、波に流された人を捜したりしています。

このようにして警察の船は海の安全を守っているのです（千葉県警察には、4隻※の船があります。）。

※ 船名：ぼうそう、いぬぼう、はつたか、まき